５）止水環境対策（調整池やモリアオガエル代替産卵池など）

改変前、当該地域の自然環境要素の中では、水田を中心とした止水環境の存在が大きな特徴のひとつでした。改変後は下流側に広大な調整池が出現したほか、環境プラザ内にはモリアオガエル用の産卵池が設置されました。

【調整池】

調整池では、広い水域の出現（2005 年頃）により、サギ類（アオサギ、ダイサギなど）やカモ類（カルガモ、マガモ、コガモなど）、カワウなどの水鳥が利用するほか、モリアオガエルの産卵も確認されています。また、調整池に付随する後背の湿生草地（2021 年時点ボントクタデが優占）ではニホンジカやイノシシ、アナグマ、タヌキなどの利用が確認されています（写真 5.2.17）。植物では、2014 年 12 月の観察時、調整池の上流側岸辺でタコノアシ（ユキノシタ科：国、県のレッドデータブックで準絶滅危惧種）を 100 株程確認しました。本種は、その後、継続して生育が確認されていましたが、当該地は水位の変動が激しいためか、個体数は減少傾向にあり、2020 年 9 月に 1 株を確認したのみであり、2021 年には確認できませんでした。

このような広い水域環境は造成前にはなく（水田はあったが環境条件が異なります）、改変後新たに出現した環境です。人の立ち入りがほとんどなく、水域と後背湿地域には自然性の高い環境が形成されつつあると考えられます。

【モリアオガエル代替産卵池】

モリアオガエルの代替産卵池では造成後（2006 年）から本種の産卵が継続的に確認されています（写真 5.2.16～17）。また、周辺沢部においても本種の鳴声や産卵が確認され、これらの水環境が本種の安定した産卵場になっていることが示されました。

モリアオガエル代替産卵池造成中　2005.12.20

モリアオガエル代替産卵池　2022.2.10

写真 5.2.16　モリアオガエル代替産卵池

モリアオガエル用の 代替産卵池と卵塊　2021.5.23	代替産卵池、モリアオガエルの 産卵　2018.5.18	調整池 2022.9.29
調整池　１年草のボントクタデが優占　自然性の高い環境が形成されている　2021.8.21	調整池上流側の流れと 後背湿地　2021.8.21	後背草地　イノシシの掘り痕 2021.8.21

写真 5.2.17　モリアオガエル用代替池と調整池

６）哺乳類の移動路対策（グリーンベルト部）

温浴施設と多目的スポーツレクリエーション広場との間に盛土状のグリーンベルトがあります。道の上はカルバートボックスで渡し、盛土部を含め在来樹木（コジイ、アラカシ、ヤブツバキ、エゴノキ、イヌシデなど）の植栽を行い、帯状の緑地を形成しています。これは、防風や東西の樹林域をつなぎ動物の移動路を確保する目的で造成されたものです。

2013 年に調査したところ、イノシシ、ニホンジカなど偶蹄類の利用（掘痕、食痕、糞など）が確認できました。また西側の山地樹林付近では、けもの道やニホンリスの食痕（アカマツの球果）なども確認されました。

2016 年 9 月の調査でも、イノシシによる掘り返しやニホンジカの足跡、食痕が見られました。そこで移動路に自動撮影カメラを２台設置したところ、2020 年までにイノシシ、カモシカ、ノウサギ、タヌキ、キツネ、アナグマ、ハクビシンなどの利用を確認しました。

現在のところ当該移動路は、中・大型哺乳類によく利用されていることが認められています。

動物移動路(グリーンベルト)、カルバートボック部。在来樹木植栽　2021.6.10	動物移動路(グリーンベルト)、盛土部。在来樹木植栽 2021.8.21	カモシカ 2019.6.13
カモシカ 2021.6.11	イノシシ 2016.9.28	ノウサギ 2020.9.14

写真 5.2.18　　動物移動路とその利用動

タヌキ 2020.6.07	キツネ 2017.9.16
アナグマ 2018.5.17	ハクビシン 2017.6.28

写真 5.2.19　　動物移動路の利用動物